



2010年1月31日発行



今回の紙面から（ページと内容）

1. 会長挨拶
2. 第3回国際春季フォーラムご案内
第28回大会のご案内
(Student) Workshopの企画募集
理事会・評議員会より
4. 編集委員会より
6. 大会運営委員会より
広報委員会より
7. 学会各賞選考結果報告（日本英語学会賞、
日本英語学会特別賞、日本英語学会新人賞）
新人賞検討ワーキング委員会より
8. 「日本英語学会賞」募集
「日本英語学会新人賞」募集について
日本英語学会2009年度収支中間報告書
9. 日本英語学会会員名簿の廃止について
事務局より

会長挨拶

新しい年の夜明け

会長 原口 庄輔

あけましておめでとうございます。会員各位におかれましては、輝かしい新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

私は、この3月で会長の任を無事に勤め上げて退任することになりました。故天野会長の急逝に際しては、取るものもとりあえず英語学会のために会長を引き受けました。しかし、幸いなことに引き継ぎはスムーズに行われて、事務局の努力ですぐにいろいろな施策が次々と実行に移されました。

天野・原口政権は、ほぼ1年半ずつ合計3年間でした。変則的な体勢でしたが、当初予定していた施策は、事務局の努力と皆様方の協力を得て、ほぼすべて達成できました。皆様方の温かいご支援とご協力に対して、衷心よりお礼申し上げます。

実現された施策は、国際春期フォーラムや英語学会賞をはじめとして、学会の発展のために極めて重要な意味を持つものです。会員の皆様方の力

で、それらをさらによいものに育てて拡充していただきたいと思います。

会長の任を終えるに当たって、日本英語学会をさらに発展させるために重要な意味を持つ三つのことについて述べたいと思います。この三つは、英語学会の発展を確かなものにするために、当たり前と言えば当たり前のことですが、会員の皆様方に是非とも実現させていただきたいものです。

(1) 自らの英語の力を伸ばすシステムを確立する 英語学の研究を志す者にとって何よりも重要なことは、読み書き聴き話すという英語の力を自ら常に磨くことです。そのためには、自らの英語力を高めるシステムを確立し、それを自ら実行して、改良していくことです。

英語学会を一層発展させるためには、会員一人一人が英語の運用力を伸ばし、自分を高めるための日々の努力が不可欠です。ほとんどの英語学の研究者は、英語を教えており、英語教育の実践者でもありますから、自らの英語力を磨くことは、教育の効果を上げるために、極めて重要です。

(2) 英語教育の質の向上を図ることに積極的に貢献する それと共に重要なことは、自らの英語力を飛躍的に伸ばした経験に基づいて、英語教育の効果を上げて、英語教育の質の向上を図ることに積極的に貢献することです。学生の英語力を高めることに大きく貢献し、それを社会に認められなければ、英語教育者としての職を増やすことはできません。英語学者としてはもちろん、優れた英語教育者として認められることが、後進の就職の機会を増やすことにつながります。就職の道を大きく増やすことは、とりもなおさず英語学会の発展に直結します。

(3) 世界基準の言語(英語)研究を心がけて実践する 一方で、英語学の研究者として常に心がけることは、世界基準の言語研究・英語(学)の研究を行うことです。英語学の研究は、かなりのものが国際的なジャーナル等で発表されており、著書も海外の出版社から毎年のように出版されています。これは大変素晴らしいことです。我々の研究の質をさらに上げ、量をもっと増やすことによって、我々の研究を国際基準に合致した

ものにし、さらには合致するのが当たり前になることが、学会の発展を促進することにつながります。

我々が英語学会を発展させるためには、我々は、この三つの試みを着実に実行に移し、世間の評価を上げることです。その努力なくして、学会がさらに発展することは望めません。

会員の皆様方の大いなる夢とその夢の実現のための努力を期待しています。

さて我々が学会は、先ほど行われた会長選挙において、新しく稲田俊明会長が選ばれ、新事務局が組閣されました(2010年度からの事務局の項を参照)。新会長の下で、日本英語学会をさらに大きく発展させるために、会員の皆様方が心を合わせて協力をしていただきたいと思います。

我々の学会を日本はもちろん世界に誇る素晴らしい組織に育て上げることは、他ならぬ我々の将来のためなのです。このことを常に念頭に置いて頑張ろうではありませんか。また、学会の発展のため、常に前進していきましょう。

寅は千里を走ると言いますが、寅年の年頭に当たって、大きな夢を心に抱き、大きな志に沿って、常に前進して、我々が学会を発展させていただきよう、お願いします。

第3回国際春季フォーラムのご案内

第3回日本英語学会国際春季フォーラムを以下の通り開催します。同封のプログラムをご覧の上、会員の皆様のご参加をお待ちしております。

日時：2010年4月24日(土)・25日(日)

場所：青山学院大学(青山キャンパス)

(〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25)

最新情報は学会ホームページの「International Spring Forum(国際春季フォーラム)」の部分でご確認下さい。

第28回大会のご案内

第28回大会は次の通り開催される予定です。

日時：2010年11月13日(土)・14日(日)

場所：日本大学(文理学部キャンパス)

(〒156-8550 東京都世田谷区桜上水3-25-40)

会員の方は奮って研究発表にご応募下さい。応

募締め切りは4月1日(木)24時(必着)です。応募の際は、学会ホームページ(<http://wwwsoc.nii.ac.jp/elsj/index.html>)掲載の研究発表応募規定を遵守下さいますようお願いいたします。

第28回大会においても「親と子の部屋」を設置いたします。詳細は、今後学会ホームページや7月発行の『え〜ごがく』53号でご案内いたします。

(Student) Workshopの企画募集

日本英語学会では、会員の自主的な企画・運営によって特定のテーマについて発表と自由な討論をしていただく場として、ワークショップ/スチューデント・ワークショップ企画を例年募集しています。第28回大会では、11月13日(土)の午前9時30分から11時45分までをワークショップ/スチューデント・ワークショップにあてる予定です。

企画・運営をご希望の方は、学会ホームページ(<http://wwwsoc.nii.ac.jp/elsj/index.html>)掲載のワークショップ募集案内をご確認のうえ、3月31日(水)24時(必着)までに、同案内指定のアドレスまで企画書と応募用紙を送信して下さい。

理事会・評議員会より

○ 会計

2009年11月13日に開催されました第59会理事会と第27回評議員会において、日本英語学会2009年度収支中間報告が承認されました。「日本英語学会2009年度収支中間報告書」は、8ページに掲載されておりますので、ご覧ください。

○ 会則の改正

2009年6月28日開催の第57会理事会、および2009年8月30日開催の第58会理事会において、日本英語学会会則の改正が承認されました。

改正された条項は以下のとおりで、すでに日本英語学会ホームページに掲載されております。

・第57回理事会で改正された条項の新旧対照

① 第9条

旧：本会に次の役員を置く。

(中略)

8. 大会運営委員若干名
9. 顧問若干名
10. 事務局長 1名

新：本会に次の役員を置く。
(中略)

8. 大会運営委員若干名
9. 広報委員長 1名
10. 広報委員若干名
11. 顧問若干名
12. 事務局長 1名
13. その他、理事会の議を経て臨時に編成される委員会の委員(長)

② 第 15 条

旧：編集委員会は、別に定める規定により構成され、委員長は委員の互選により決める。

2. 編集委員長および編集委員の任期は 2 年とし、再任を妨げないが、引き続き 2 期を越えてはならない。
3. 編集委員会の規定は別に定める。

新：編集委員会は、編集委員会の規定により構成され、委員長は委員の互選により決める。

2. 編集委員は、再任されてもよいが、引き続き 2 期を越えてはならない。
3. 編集委員長の任期は 1 期とし、再任はできない。
4. 編集委員の任期は編集委員会の規定で定める。
5. 編集委員会の規定は別に定める。

③ 第 16 条の 1

旧：大会運営委員会は、別に定める規定により構成され、委員長は委員の互選により決める。

新：大会運営委員会は、大会運営委員会の規定により構成され、委員長は委員の互選により決まる。

④ 第 17 条

第 17 条として、広報委員会の規定を追加し、旧第 17 条を新第 18 条とし、以下条項の番号を一つずつ繰り下げる。

第 17 条 広報委員会は、広報委員会の規定により構成され、委員長は委員の互選により決める。

2. 広報委員の任期は 3 年とし、引き続き再任はできない。
3. 広報委員会の規定は別に定める。

(①-④は、2009 年 4 月 1 日に遡って施行)

・第 58 回理事会で改正された条項の新旧対照

⑤ 第 6 条の 3

旧：3. 維持会員は、65 歳を越えた場合、通常会員に戻る。その時期は、直近の任期終了時とする。

新：3. 維持会員は、満 68 歳になった時点で、通常会員に戻る。ただし、第 9 条に定める役員の中の 1 から 4 までの場合には、通常会員に戻る時期は、直近の任期終了時とする。

(注：第 9 条に定める役員の 1 から 4：会長、理事、評議員、監事)

⑥ 第 10 条

旧：会長は、理事会の選挙によって決める。会長の任期は 3 年とし、引続き再任はできない。なお、会長は、会員の中から選出されるものとし、62 歳を越えて会長に選出されることはできない。

新：会長は、理事会の選挙によって決める。会長の任期は 3 年とし、引続き再任はできない。なお、会長は、会員の中から選出されるものとし、就任時に満 65 歳以下でなければならない。

⑦ 第 12 条の 2

旧：2. 理事の任期は 2 期(1 期=2 年)とし、引続き再任はできない。また、63 歳を越えて選出されることはできない。任期 1 期目で 65 歳を越えた場合は、会則第 6 条 3 に準じて、その役を退く。

新：2. 理事の任期は 2 期(1 期=2 年)とし、引続き再任はできない。ただし、就任時に満 65 歳以下でなければならない。

⑧ 第 13 条の 2

旧：2. 監事の任期は 3 年とし、引続き再任はできない。また、62 歳を越えて委嘱されることはない。

新：2. 監事の任期は 3 年とし、引続き再任はできない。ただし、就任時に満 65 歳以下でなければならない。

⑨ 第 14 条の 2

旧：2. 評議員の任期は 3 年とし、引続き再任を妨げない。但し、62 歳を越えて委嘱されることはない。

新：2. 評議員の任期は 3 年とし、引続き再任を妨げない。ただし、就任時に満 65 歳以下でなければならない。

(⑤-⑨は、2009 年 9 月 1 日より施行)

○ 役員の異動（含、選挙結果報告）

・会長（新任）

任期満了に伴う会長選挙が郵送による投票で行われ、選挙管理委員（米山三明氏と大津由紀雄氏）による開票（12月20日（日）慶應義塾大学三田キャンパスで実施）の結果、稲田俊明氏（九州大学）が会長に選出されました。任期は、2010年4月1日から2013年3月31日までの3年間です。

・理事（退任）

次の6名の理事の方々が2期4年の任期満了にともない、2009年11月30日付で退任されました。稲田俊明氏、今西典子氏、大庭幸男氏、高見健一氏、外池滋生氏、原口庄輔氏

中村捷氏が、理事1期目で理事選出年齢を超えたため、会則12条の2に従い、11月30日付で退任されました。

・理事（新任）

任期満了に伴う理事選挙が郵送による投票で行われ、選挙管理委員（米山三明氏と今西典子氏）による開票（10月20日（火）東京大学本郷キャンパスで実施）の結果、次の6名の方が理事に選出されました。

池内正幸氏（津田塾大学）、大津由紀雄氏（慶應義塾大学）、澤田治美氏（関西外国語大学）、長谷川信子氏（神田外語大学）、廣瀬幸生氏（筑波大学）、山梨正明氏（京都大学）（50音順）

中村捷氏の後任として、2007年理事選挙結果にもとづき、伊藤たかね氏（東京大学）が理事に就任されました。

1期目の任期を終えられました、岡田伸夫氏、影山太郎氏、中島平三氏、米山三明氏の4氏（50音順）は、2期目の理事として、継続してもう1期理事を務められます。

任期は、任期開始時期が4月1日変更されたことに伴う移行期間の特例措置のため、新任理事・継続理事とも、今期に限り、2009年12月1日から2012年3月31日までとなります。

・監事（退任）

伊藤たかね氏が理事就任にともない、11月30日付で退任されました。

・監事（新任）

12月1日付で、萩原裕子氏（首都大学東京）が監事に就任されました。任期は、伊藤氏の残任期間で、2010年3月31日までとなります。

・編集委員長（退任）

第13期編集委員長の今西典子氏が2009年11

月30日付で退任されました。

・編集委員長（新任）

2009年9月1日付で稲田俊明氏が第14期編集委員長に就任されました。ただし、会長就任のため、2010年3月31日付で退任されます。

・大会運営委員長（退任）

加賀信広氏が2009年12月14日付で退任されました。

・大会運営委員長（新任）

2009年12月15日付で水口志乃扶氏（神戸大学）が大会運営委員長に就任されました。任期は1年間です。

○ 2010年4月からの事務局

稲田俊明氏の会長就任にともない、現事務局員は2010年3月31日付で退任し、2010年4月1日より、新たに事務局が構成されます。

2010年度については、諸般の事情により、現事務局長の1年間留任とあらたに事務局長補佐の設置が理事会にて決定されました。

事務局の構成は以下のようになります。

事務局長（2010年度まで）

岡崎正男氏（茨城大学）

事務局長補佐（2010年度）

西岡宣明氏（九州大学）

編集委員会・理事会担当書記

増富和浩氏（宮城学院女子大学）

村尾治彦氏（熊本県立大学）

大会運営委員会・広報委員会・評議員会担当書記

宗正佳啓氏（福岡工業大学）

財務・国際春季フォーラム担当書記

廣江 顕氏（尚絅大学）

○ 訃報

本学会の編集委員長を務められました村木正武先生が、2009年10月3日にご逝去されました。日本英語学会の活動へのご貢献に感謝しますとともにご冥福をお祈りいたします。なお、EL27巻1号に村木先生の obituary が掲載されます。

編集委員会より

◇ 第14期編集委員会（EL27巻・28巻編集担当）の運営について

第14期編集委員会は2009年8月に第13期編集委

員会副委員長を務めた稲田俊明氏（九州大学）を第14期編集委員会委員長（任期は2009年9月1日から2011年11月30日）に選出しました。2009年9月1日から第13期編集委員会委員長が退任する11月30日までの期間を引継ぎ移行期間とし、両委員長が協力してELの編集にあたりました。

2009年11月13日に開催された第67回編集委員会で、外池滋生氏（青山学院大学）を第14期編集委員会副委員長（任期は2009年12月1日から2011年8月31日）に選出しました。

2009年12月に行われた日本英語学会会長選挙の結果、稲田俊明現編集委員会委員長が選出されました。これにより、稲田委員長は2010年3月31日で編集委員・委員長を退任することとなりました。

第14期編集委員会は2010年1月に編集委員会規定の内規に沿って、稲田現委員長の残任期間（2010年4月1日から2011年11月30日）を務める第14期編集委員会委員長に外池滋生現副委員長が就任することを決定しました。これに伴い、外池現副委員長の残任期間（2010年4月1日から2011年8月31日）を務める第14期編集副委員長の選出も行い、伊藤たかね氏（東京大学）の就任を決定いたしました。なお、稲田氏の残任期間（2010年4月1日から2011年9月30日）を務める編集委員については選考中です。

電子版投稿・審査体制で年間を通して組まれている編集日程に沿ってELを年2回順調に発行していくためには、新旧編集委員長の引き継ぎ期間を十分に取ることが編集委員会の継続的運営に必須となります。本年4月1日には、現編集委員会委員長が新委員長に交替し、さらに現事務局も新事務局に交替します。2010年2月から4月までの期間を現編集委員会委員長と新委員長との新たな引継ぎ移行期間とし、前編集委員会委員長、新旧編集委員会書記ならびに開拓社編集部との協力も得まして、ELの編集作業が円滑に進むように入念な準備を行いますので、会員の皆様にもご協力をお願い申し上げます。

◇ *English Linguistics* 第26巻2号（2009年秋号）の刊行について

EL 26.2（秋号）が刊行されました。Article 2編、Brief Article 2編、Notes & Discussion 1編、Review Article 3編と特別企画2008の事前審査で採用となった「特集テーマ：The Emergence of Functional Categories from a Cross-Linguistic Perspective」のもとで執筆・一括投稿された4編の論文とIntroductionが掲載されています。会員の皆様には、本年1月初

旬に送付されています。

◇ *English Linguistics* 第27巻1号（2010年春号）の応募論文の査読結果について

2009年9月20日締め切りで投稿された一般論文の総数は8編で、投稿部門と投稿分野の内訳は、Article 2編（syntax 1, cognitive linguistics 1）、Brief Article 3編（syntax 2, cognitive linguistics 1）、N&D 3編（syntax 2, cognitive linguistics 1）でした。

以下の表は、巻漣による Review 6編および Review Article 1編とEL 26巻2号に応募されて「4ヶ月書き直し」と判定され、今号に再投稿された論文5編も含めたEL 27.1（春号）の審査結果です。

	応募数	採用	不採用	取り下げ	審査中
AR	2	0	2	0	0
BA	3	2	1	0	0
N&D	3	0	3	0	0
RA	1	1	0	0	0
Rev	6	5	0	1	0
4か月書き直し					
AR	5	*3	2	0	0
BA	0	(*2)	0	0	0
合計	20	11	8	1	0

*3 および (*2) という表記は、採用された3編のうち2編が、一次審査を通過して再投稿された際に、ArticleからBrief Articleに部門変更され、再審査の結果、Brief Articleとして採用されたことを示す。

◇ *English Linguistics* 第27巻2号（2010年秋号）への投稿について

2010年12月発行のEL 27.2（秋号）の原稿締切は、2010年4月1日（木）24時（必着）です。

応募される方は、学会ホームページに記載されている投稿規定及び書式に関する注意事項を通読され、最新版の規定に則って作成し、ネイティブ・チェックを受けた原稿をご投稿下さいますよう、お願い申し上げます。

◇ 「特別企画2009：特集テーマによる一括投稿論文」の事前審査への応募について

「特別企画2009：特集テーマによる一括投稿論文」の公募は2009年12月15日に締め切られ、事前審査に対して1件の応募があり、現在審査中です。「特別企画2010：特集テーマによる一括投稿論文」の公募については、2010年度初めに、学会ホーム

ページで案内を行う予定です。

◇ Editorial Advisory Boardの構成員の見直しについて

ELのEditorial Advisory Boardは、2001年に創設されて構成員の委嘱が行われ、ELには2002年度よりその一覧が掲載されています。2009年度までに、多少の委嘱追加がなされ、現在のような構成員になり、ELの「国際化」に一定の役割を果たしてきました。しかし、委嘱から9年目を迎え、物故者や所属研究機関の退職者もみられます。

Boardの構成員の高齢化が進むなかで、ELが日本英語学会機関誌として若い会員の研究成果を国際的に公開する役割を十全に果たすためには、Editorial Advisory Boardの構成員の所属や年齢構成等に関して偏りが生じないように見直すべきであるという指摘が、2009年6月の理事会でなされました。

EL27巻1号が刊行される2010年度は、Editorial Advisory Boardの創設より10年目の節目を迎えますので、2009年秋に編集委員会と理事会の意見を取りまとめる「Editorial Advisory Boardの見直しに関するワーキング委員会」が設けられました。ワーキング委員会は、まず、5年ごとの見直し等を含む「Editorial Advisory Boardの委嘱に関する申し合わせ」を作成しました。理事会と編集委員会で行なった「新規委嘱候補者となる国内外の研究者の推薦アンケート」結果と現行のBoardの60歳代後半の構成員についての見直し作業に基づき、2009年12月に「新規Editorial Advisory Board一覧案（2010年度から2014年度）」を編集委員会と理事会に提示しました。2010年1月末には委嘱作業が完了いたしますので、EL27巻1号には新規Editorial Advisory Board一覧が掲載されます。

新規 Editorial Advisory Board 一覧は、現行 Board からの継続委嘱者と理事会・編集委員会の推薦に基づく新規委嘱者で受諾を得られた構成員からなります。構成員の分布は、上限定数（44名）内で専門分野、年齢、地域について可能な限り均衡が取れるようにとの考慮に基づいています。

大会運営委員会より

◇ 大会運営委員会の構成

第28回大会大会運営委員会の構成は以下の通りです。

（委員長）水口志乃扶氏

（副委員長）菊地 朗氏

（委員）内堀朝子氏、木口寛久氏（国際春季フォーラム実行委員長）、滝沢直宏氏、太田 聡氏、塩原佳世乃氏、中谷健太郎氏、鍋島弘治朗氏、藤井洋子氏 [以上留任]

上田由紀子氏、大堀壽夫氏、奥野忠徳氏、片岡邦好氏、縄田裕幸氏 [以上新任]

◇ 第28回大会シンポジウム企画について

現在準備が進行中です。詳しい内容は次号の『え〜ごがく』53号でお知らせいたします。

◇ JELS 27 について

JELS 27 は、現在大会運営委員会にて編集集中です。第27回大会で購入の申し込みをしていただいた方には、3月末にお届けする予定です。

◇ 第27回大会の報告

第27回大会は、2009年11月14日（土）・15日（日）の両日、大阪大学豊中キャンパスにて開催されました。本大会では、6つのシンポジウム、36の研究発表、3つのワークショップが行われました。大会2日間で544名の参加者があり、盛会裏に終えることができました。JELS 27 については175部の購入申し込みがありました。また、23の出版社から書籍展示にご協力頂きました。大会運営を支えて下さった開催校の先生方や大会運営委員の先生方、そして参加された会員の皆様のご協力に対して、心より御礼申し上げます。また、今回も大会運営に関する貴重なご意見を多数いただき有難うございました。今後の大会運営の参考にいたします。

広報委員会より

◇ English Linguistics バックナンバーのアーカイブ化について

EL 第1巻から第22巻1号までのアーカイブ化が完了いたしました。Journal@rchive (http://www.journalarchive.jst.go.jp/japanese/jnltop_ja.php?cdjournal=elsj1984)にて公開しておりますので、どうぞご利用下さい。なお、公開対象は発行後4年を経過した号までです。

◇ 教員公募情報の日本英語学会ホームページへの掲載について

学会ホームページに教員公募情報のページを新設いたしました。当該のページには、会員より掲載希望の申し出があった教員公募情報に限り掲載いたします。掲載をご希望の方は、学会事務局まで E メールにてお申し出ください。
(メールアドレス : elsj-info@kaitakusha.co.jp)
(なお、掲載されている教員公募についての問合せは当該機関へ直接お願いいたします。当学会では、公募に関する問合せに応じることは一切できません。)

◇ 日本英語学会ホームページから出版社、書店へのリンクについて

これまで学会ホームページから出版社、書店へのリンクは設けておりませんでした。賛助会員に限り、リンクの設置を承認することになりました。賛助会員でリンク設定を希望される場合は、E メールにて学会事務局までお申し出下さい。
(メールアドレス : elsj-info@kaitakusha.co.jp)

学会各賞選考結果報告

○ 「日本英語学会賞」選考委員会より

第一回日本英語学会賞は岩田彩志氏(大阪市立大学)の著書 *Locative Alternation: A Lexical-Constructional Approach*, John Benjamins, 2008. に授与されました。海外の出版社からの出版であることから国際的水準にあると認められること、語彙論的アプローチと構文論的アプローチの利点を取り入れた「語彙・構文論的アプローチ」を提案し、その枠組みにおいて動詞の交替現象を詳細に論じ、現代英語の記述研究に対しても、構文文法理論の発展に対しても顕著な貢献があると認められました。

なお、第一回日本英語学会賞への応募は1件でした。

○ 「日本英語学会特別賞」選考委員会より

本年度の日本英語学会特別賞は故天野政千代氏に決定した。天野氏は、市河賞受賞に代表される優れた研究業績により学界に貢献し、また日本英語学会会長として学会発展のため献身的に尽力し、国際春季フォーラムの開催や学会賞の創設など、

学会の改革・改善を推進した。さらに他学会においても活躍し、海外研究誌の編集委員や国際学会の主催など国際的にも貢献したほか、生成文法に基づく史的統語論の分野の研究者育成でもすぐれた成果を収めた。天野氏のこうした多岐にわたる貢献が高く評価されたものである。

○ 「日本英語学会新人賞」選考委員会より

2009年度日本英語学会新人賞には、1編の応募がありましたが、残念ながら受賞に該当する論文とはなりませんでした。

2003年度に創設された日本英語学会新人賞は本年度で第7回となりました。この間の応募論文の総数は27編で、2005年度と2008年度にそれぞれ佳作(現行の研究奨励賞に該当)受賞論文が2編と研究奨励賞受賞論文が1編選考されていますが、新人賞受賞論文はまだ選考されていません。

日本英語学会の新人賞は若手会員の将来性に富んだ、優れた研究成果を学会として顕彰し、国内外に広く公開することをめざしています。応募論文数が少ない現状では、そのような目的は達しがたくなっています。

1編の論文しか応募されなかった今年度、新人賞応募論文の一次選考において審査協力を行っている理事会や編集委員会、より多くの若手会員が積極的に新人賞に応募するように現行の応募と選考の方法を見直す必要があるのではないかという意見が提示されましたので、1年という期間を限って見直し案を検討する新人賞検討ワーキング委員会が設けられました。2010年度以降の新人賞の応募や選考に関しては、後述の新人賞検討ワーキング委員会の案内をお読みください。

新人賞検討ワーキング委員会より

新人賞検討ワーキング委員会は、2009年11月14、15日に開催された日本英語学会の大会時に会員に対して「新人賞についてのアンケート」を実施し、その結果も踏まえて、編集委員会と理事会に検討すべき問題を示しながら、見直し案の取りまとめを行っています。

アンケートの「現行の規定では新人賞に応募して受賞とならなかった論文は再検討の上、後にELへ投稿可能とされているが、一次選考を通過した論文が最終選考で受賞論文とならなかった場合に、

自動的に EL に応募された論文ともみなされ、新人賞最終選考委員会および編集委員会からのコメントを踏まえ、書き直して再投稿すれば、編集委員会の再査読審査が受けられるようになるとしたら、どのように思いますか。」という問いに対して、賛成という回答が多数ありました。このような回答を踏まえ検討すると、「年齢等の基準を満たしている投稿論文で EL に掲載されることになった論文の中から新人賞を選考する」というような選考方法が考えられますが、このような選考方法を実施可能とするには、「EL における審査期間を新人賞の選考対象となる候補論文を集積する期間」とみなす必要があります。この期間の設定のされ方に準じて、2010 年度（以降）の新人賞の応募要件も定められることとなります。現在検討中ですので、応募要件の詳細については、本年 5 月以降に学会のホームページに公表し、7 月末に発行される『え〜ごがく』53 号に記載し周知する予定です。応募案内が例年より遅くなりますこと、会員の皆様には、ご理解をお願い申し上げます。

「日本英語学会賞」募集

「日本英語学会賞」は、学会ホームページの「日本英語学会賞の受賞に関する規程」を熟読のうえ、会員3名以上（評議員1名以上を含む）の連名により、被推薦者の経歴書、対象業績の概要（600字程度）および推薦理由書（600字程度）を添えて、**2010年5月31日（月）（必着）**までに応募して下さい。応募先は、学会賞応募用アドレスです。（メールアドレス：award-obo@kaitakusha.co.jp）

「日本英語学会新人賞」募集について

2010 年度日本英語学会新人賞については、「新人賞検討ワーキング委員会から」にありましたように、応募要件については、現在見直し作業が進行中です。

2010年度（以降）の日本英語学会新人賞の応募要件の詳細については、本年5月以降に日本英語学会のホームページ、および、7月末に発行される『え〜ごがく』53号をご覧ください。

日本英語学会 2009 年度収支中間報告書

2009.10.1現在

【収入内訳】

2008年度より繰越	¥10,354,861
会費	¥4,805,900
大会参加費(春)	¥322,000
科研費	¥1,100,000
利息	¥1,399
雑収入	¥0
合計	¥16,584,160

【支出内訳】

EL 刊行費	¥1,724,647
NL 等印刷費	¥38,430
業務委託関係費	¥1,195,392
事務委託費	¥599,034
発送費	¥596,358
大会関係費(春)	¥326,322
印刷費	¥0
運営費	¥176,322
謝金	¥150,000
大会関係費(秋)	¥200,000
印刷費	¥0
運営費	¥200,000
謝金	¥0
委員会関係費	¥679,550
旅費	¥621,900
会議費	¥57,650
JELS関係費	¥0
事務局関係費	¥1,467,649
賃貸料	¥0
人件費	¥1,362,940
通信費	¥62,650
消耗品費	¥15,934
謝金	¥0
交通費	¥26,125
資料コピー	¥0
その他	¥0
その他	¥4,050
学会賞等費	¥10,161
協賛学会への助成	¥0
合計	¥5,646,201

日本英語学会会員名簿の廃止について

日本英語学会の会員名簿は、いままで3年毎に発行され、最新のものは2007年3月に発行されました。従来の発行スケジュールによれば、2010年3月には会員名簿が発行される予定でした。しかし、第58回理事会と第59回理事会における検討の結果、今後、日本英語学会会員名簿の発行を取止めることが決定されました。

会員名簿発行を取止める主な理由は以下の四点です。まず第一に、日本英語学会の活動では、Eメールによる連絡が基本となり、郵便や電話による連絡は、稀なケースであることが挙げられます。

第二に、名簿発行のためには、会員の皆様の情報提供と名簿に掲載可能な情報の選択にもとづき名簿への記載事項が決まるわけですが、住所、電話番号、メールアドレスなどの情報を記載不可とされる会員が増えてきていることが挙げられます。そのため、名簿に記載の情報から必要な情報を得られない場合も生じております。

第三に、第二の理由から、会員名簿の利用頻度が高いとはいえない状況が出来していると考えられることが挙げられます。同時に、事務局の視点から見ますと、会員情報のデータベース（有料）を学会支援機構より取得可能で、会員名簿なしでも仕事に支障は生じない、という状況にあります。

最後に、会員名簿の廃止により、3年毎の発行費用として100万円強の経費が必要とされてきたわけですが、その経費を節約し名簿発行以外の学会活動の経費に当てるのが可能になります。会員名簿の廃止で捻出された資金を、*EL*や*JELS*の発行のために利用することが可能となります。

会員各位におかれましては、以上の理由をご理解いただき、会員名簿の廃止につきまして、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。なお、会員相互の連絡のための情報を得る代替手段については、その必要性の有無も含めて未だ研究中で、成案を得てはおりません。会員名簿に替わる手段については、今後検討を重ねてゆきます。

事務局より

○ *EL* 掲載論文の再録・登録に関するお願い

EL に掲載された論文の著作権は本学会にあります。そのため、他のジャーナルや著書に再録す

る場合には本学会の許可が必要です。また、大学及び他機関の学術レポジトリや電子アーカイブへの登録や個人のウェブサイトへの掲載は、発行後4年以上経過した論文のみお認めしております。

以上の注意事項は、本学会「情報管理規定」に基づき、*EL* 25.2 (秋号) の奥付にも記されています。*EL* 掲載論文の再録・登録をご希望の方は、事前に事務局までEメールでお申し出ください。

(メールアドレス: elsj-info@kaitakusha.co.jp)

○ *JELS* 掲載論文の再録・登録に関するお願い

JELS 掲載論文についても、再録、および学術レポジトリや電子アーカイブへの登録や個人のウェブサイトへ掲載の場合には、*EL* 掲載の論文と同様に、事前に事務局までEメールでお申し出ください。(メールアドレス: elsj-info@kaitakusha.co.jp)

JELS 掲載論文については、発行後1年を経過したものについては、申し出があれば再録や学術レポジトリなどへの掲載を認めることになりました。

○ 外部査読者登録のお願い

外部査読者リスト2009年に登録をされた方を含めて、新たに本年3月には「外部査読者リスト2010への登録のお願い」を事務局より送信しますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

氏名の公開につきましては、本人のご希望を確認した上で、国際春季フォーラム・新人賞・*EL* への応募原稿・投稿論文の外部査読者名は*EL* に、大会発表への応募原稿の外部査読者名は*JELS* に、審査終了後に毎年公開いたします。外部査読を担当された方は、公開後であれば、個人の研究経歴や業績として公表可能となります。

○ 連絡先等変更のご連絡のお願い

学会各賞への応募、研究発表応募、および*EL* 投稿の電子化に伴い、学会から会員への連絡は、電子メールで行なうことが通常の状態になっています。つきましては、メールアドレスに変更が生じた場合には、速やかに学会支援機構にご連絡いただき、電子版投稿・審査体制の下での学会運営にご協力いただきますようお願いいたします。

住所等の連絡先および所属に変更が生じた場合にも同様にお願いいたします。

連絡方法については、学会ホームページをご覧ください。特に、3月から4月は変更が多い時期ですので、忘れずにご連絡をお願いいたします。

○ 学生会員の登録について

2010年度に学生会員として登録（今年度からの継続を含む）を希望される方は、以下の要領でお申し出下さい。申告期間の終了直後に2010年度の会員種別を確定し、会費請求をさせていただきます。申告期間内にお申し出がない場合には、通常会員として会費請求がなされますので、ご注意下さい。

●申告資格：次の①もしくは②の条件を満たす会員

- ①大学など学校の「学生」の資格をもつ会員。
- ②研究生・聴講生・専任の勤務を持たない大学院修了者、および外国の大学の日本校の学生。

●申告期間：2010年4月1日より4月26日（必着）

●申告方法：会員番号・氏名・4月以降に在籍する学校の名称を記した用紙に、4月以降に学生であることを証明する以下の(1)から(4)のいずれかの書類を添付し、事務局宛（宛先は奥付参照）「学生会員登録希望」と必ず朱書きのうえ、郵送して下さい。

- (1) 在籍する学校の発行する在学証明書
- (2) 学生証のコピー
- (3) 進学する学校・課程の合格通知のコピー
- (4) 指導教員（所属明記）の署名（捺印）と説明の言葉

なお、専任の勤務を持たない大学院修了者は、元指導教員（あるいはそれに相当する立場の教員）に説明の言葉を書いてもらい、それに署名（捺印）してもらったものを提出して下さい。いずれの場合も必ず封書をお願いします。なお、申告された後に事情の変更が生じた場合には、事務局にお申し出下さい。また、何か不明な点がある場合にも、事務局までご連絡下さい。

○ 会費納入のお願い

今年度の会費をまだ納入されていない方は、学会支援機構から送られた振込用紙で至急納入いただきますようお願いいたします。会費を2年間滞納されますと、会員規定第3条第4項により自動的に退会扱いになりますのでご注意下さい。

○ 再度編集委員会からのお願い

(1) EL に所属機関の working papers 等に発表された研究（の一部）を発展させて論文を投稿されることは望ましいことですが、論文審査および研究業績の発表に関する倫理規定に則して、編集委員会が公平で厳正な審査を行えるように、関連する投稿者自身のこれまでの研究論文の情報は必ず

記載ください。また、相互に匿名による審査体制であることに留意し、本文等でそれらに言及する際には、3人称表現をご使用ください。

(2) 編集委員会あるいは開拓社宛に投稿・連絡する場合には、必ず指定されている宛先のアドレスに送信ください。

開拓社から送られる自動応答の着信確認用の受領メールに返信する形で、連絡メールを送信しないでください。

編集後記

昨年4月1日の事務局引継ぎからあと2カ月で1年が経過し、現事務局は新事務局に仕事を引き継ぐこととなります。引継ぎ時は、すべてが新情報で、仕事をこなしてゆくことだけで余裕がまったくありませんでしたが、第2回国際春季フォーラム、第27回大会、それと年2回の *English Linguistics* の発行を中心として、なんとか仕事をこなし、ようやくゴールの近くに到達したようです。この1年間の会員各位のご協力に対しまして、事務局員一同、厚くお礼申し上げます。

4月から新事務局が発足し、「理事会・評議員会より」に記した方々が、今後3年間事務局の仕事を担当することとなります。一点、異例ではありますが、事務局長が1年留任ということになり、その点が、今までと大きく違いますが、今後とも会員各位のご指導、ご鞭撻のほどよろしく願い申し上げます。

（岡崎正男、大竹芳夫、松岡幹就、和田尚明、今野弘章）

2010年1月31日発行
編集・発行 日本英語学会
代表者 原口 庄輔
発行所 日本英語学会
<http://wwwsoc.nii.ac.jp/elsj/>
〒113-0023
東京都文京区向丘 1-5-2
開拓社内
電話 (03) 5842-8900
